

発表内容補足資料

金沢大学附属特別支援学校

補足資料の内容

1 小学部 ・ 2 中学部 ・ 3 高等部

- ① 研究対象生について
- ② 指導計画について(教育課程の検討)
- ③ 指導内容・方法・評価について(具体的方策の探究)
- ④ 取組の成果と課題について

4 各種データ

- ① CARD結果
 - ② 石川県基礎学力調査結果
- #### 5 運営指導委員による補足説明

金沢大学附属特別支援学校

子どもたちの
現在と未来の笑顔に会いたくて

- 保護者の方
 - お知らせ
 - 学校だより
 - 進路だより
 - 給食だより
 - 保健だより
 - 与薬依頼書
- 教育関係者の方
 - 令和5年度教育委員会
 - いじめ防止基本方針
 - 使用教科書採択結果及び採択理由
- 入学希望の方
 - 令和5年度体験入学の実施について
 - 学校紹介
 - 進路

研究のご案内

ご寄附のお願い

platanus

アンケートについて

- 調査目的
知的障害特別支援学校における国語科の学習について、全国的な調査を通してその実施状況等を把握し、学校研究のさらなる充実につなげる。
- 調査期間
令和5年2月20日～令和5年3月31日
- 調査対象・方法
文部科学省学校公表している学校コード一覧において、学校種が「E1(養護)」に区分されている981校(本校・分校)に質問紙を郵送した。
- 形式
選択式と自由記述
- 回答方法
調査用紙に記入のうえ返送、もしくは調査用紙に記載されたQRコードを読み込みWeb回答・主幹教諭・副主事もしくは教務主任が回答するよう依頼した。



小学部

①研究対象生について

検査名:LCスケール(言語・コミュニケーション発達スケール)

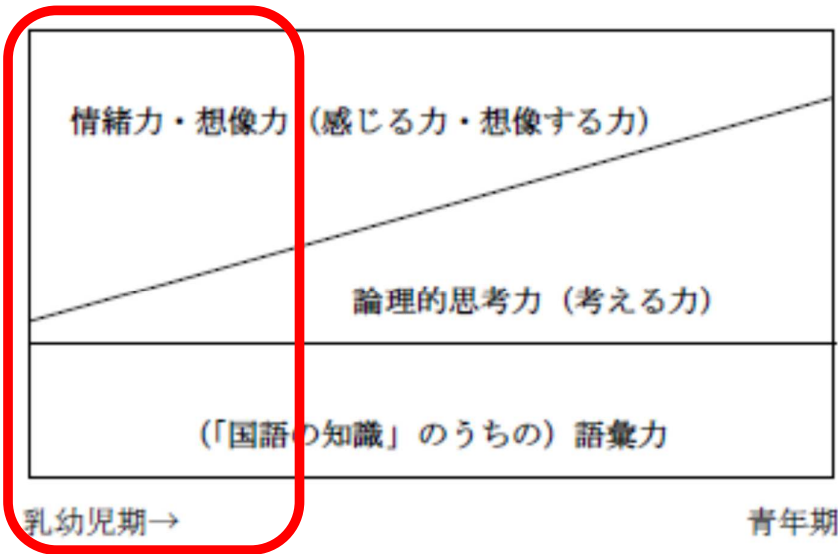
児童	言語表出	言語理解	コミュニケーション	総合得点
M1	3:8	2:9	2:7	2:11
M2	2:8	3:3	3:4	3:1

*○歳△ヶ月を○:△と表記した

◎研究対象生の発達段階は**3歳程度**である

◎特別支援学校学習指導要領小学部2~3段階に示された内容を取り扱うことが、児童の国語力を高めるために適切だと考えた

②指導計画について



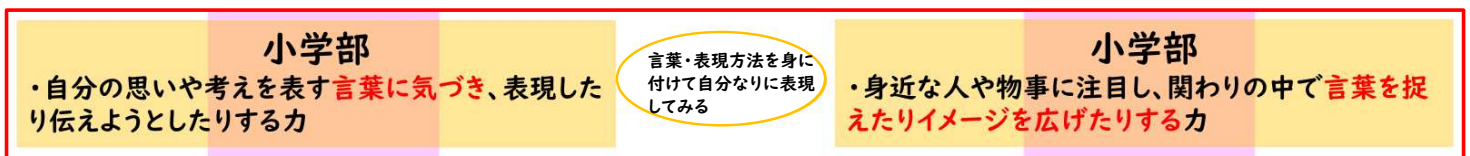
幼児期の重点は
情緒力・想像力



小学部国語科の
重点課題

出典:文化審議会答申(2004)
「これからの時代に求められる国語力について」

②指導計画について



- ・自分の思いや考えを表す言葉に気づき、表現したり伝えようとしたりする力
- ・身近な人や物事に注目し、関わりの中で言葉を捉えたりイメージを広げたりする力

②指導計画について

幼児期では、「読み聞かせ」や可能であれば読書により言葉の数を増やし、さらに「言葉と社会や事物との関係」を習得するために、家庭や地域で多くの様々な経験を積ませることを意識すべきである。これにより、情緒力や想像力も身に付けることができる。(P.14)

文化審議会答申(2004)
「これからの時代に求められる国語力について」

読書は、多くの語彙や多様な表現を通して様々な世界に触れ、これを擬似的に体験したり知識を獲得したりして、新たなものの見方や考え方に会うことを可能にする。(p.11)

出典:中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会国語ワーキンググループ(2016)
「審議の取りまとめについて(報告)」

「読むこと」を重視

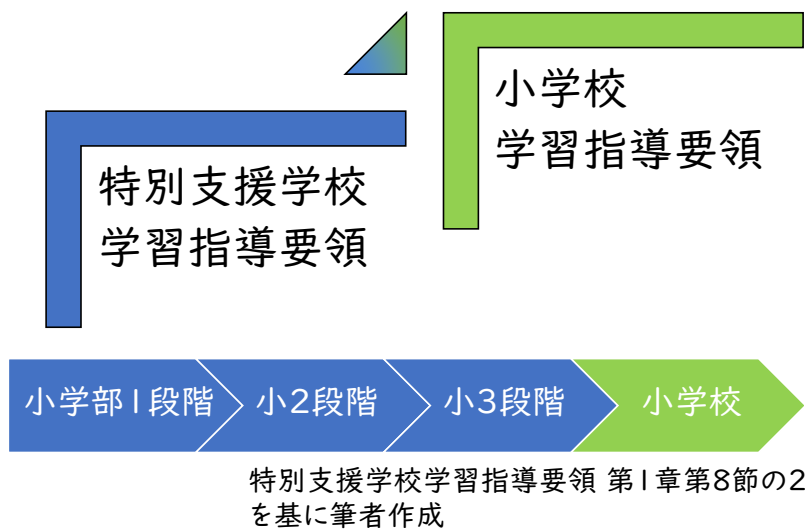
②指導計画について

情緒力を身に付けるためには、小学校段階から「読む」ことを重視し、国語科の授業の中で、文学作品を中心とした「読む」ことの授業を意図的・継続的に組み立てていくことが大切である。(p.15)

文化審議会答申(2004)
「これからの時代に求められる国語力について」

「文学的文章」を重視

②指導計画について



小学部3段階までの
内容を習得

小学校国語科の
内容に**接続**

②指導計画について



幼児期の言語発達を参考に、「C読むこと」の指導内容を習得していく過程を整理

中学部・小学校の内容を見据えた**3年計画**を作成

②指導計画について

STEP1 (1・2段階)

絵本への関心・言葉や経験の蓄積を重視する

小学校国語科では、**文章・叙述**を基に「読むこと」を指導する

STEP2 (2・3段階)

言葉や経験を土台に内容を理解して読む

各ステップの児童に合った形で**文字や文章**の学習に取り組む

STEP3 (3段階)

挿絵や叙述を基に理解を深めて読む

但し、十分に文学作品を味わうことができるように留意する
例：読み聞かせにより文章情報を音声情報に変換するなど

②指導計画について

*別添資料⑥指導計画より 単元例

動画を見て先生の模倣
【聞くこと・話すこと】

『でんしゃにのって』
読み聞かせ・動作化【読むこと】

絵本に関連して「座る」という言葉を扱う

授業で扱った「座る」が登場し、絵本の内容が**思い浮かべやすくなる**

絵本に関連する言葉の学習を「読むこと」単元前に扱った

②指導計画について

*別添資料⑥指導計画より 単元例

動画を見て先生の模倣
【聞くこと・話すこと】

『でんしゃにのって』
読み聞かせ・動作化【読むこと】

「座る」という動作の模倣に取り組む

「座る」という動作に取り組んだ経験から、
絵本の内容を動作化(表現)しやすくなる

「読むこと」で表現するために、
「聞くこと・話すこと」では相手に伝える(表現)方法を学習
できる**単元配列**をした

②指導計画について

*別添資料⑥指導計画より 単元例

前
20
動画を見て先生の模倣
【聞くこと・話すこと】

後
20
『でんしゃにのって』
読み聞かせ・動作化【読むこと】

1単位時間40分のうち、
短時間(モジュール)学習を
参考に**前後半各20分**の
学習時間で実施

- ・集中して学習に臨める
- ・前後半の学習間で関連を持たせやすくなる

②指導計画について

1学期	2学期	3学期
知識・技能 聞く・話す 書く 読む	知識・技能 聞く・話す 書く 読む	知識・技能 聞く・話す 書く 読む

「読むこと(文学的文章)」を軸にした単元配列・時数設定
3年間取組を継続

③〈国語科の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

単元目標

- ・読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く【知識及び技能】特小3ア(ア)
- ・絵本を読み、登場人物の行動や場面の様子などを想像する【思考力、判断力、表現力等】特小3Cア
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする【学びに向かう力、人間性等】

③〈国語科の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

小一特の比較・分析

【思考力、判断力、表現力等】特小3Cアについて

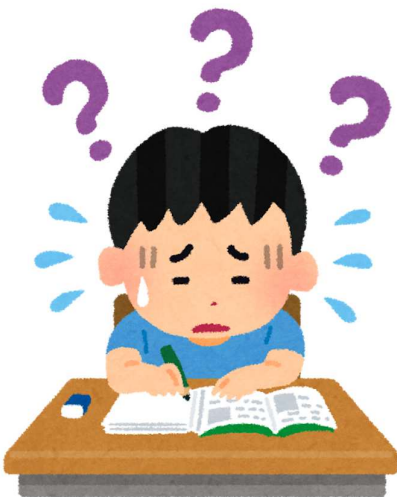
特小3Cア想像する
【構造と内容の把握】

小1・2年Cエ想像する
【精査・解釈】

- ・小学校第1・2学年「読むこと」エと類似した指導事項である
- ・学習過程は特小3段階では「構造と内容の把握」であるが小1・2年では「精査・解釈」に位置付けられている

③〈特別支援教育の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

学習の過程で考えられる困難さの状態



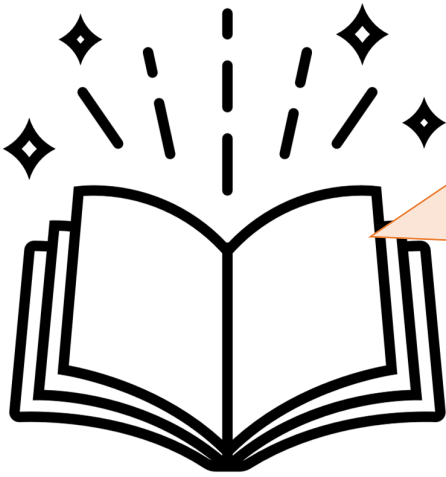
- 言葉が示す内容の体験や知識が不足
 - ▶ 言葉の意味が分からない
 - ▶ 使うことのできる言葉が限られる
- 登場人物の気持ちを考える経験が少ない
 - ▶ 表情や気持ちに焦点を当てた想像が深まらない
 - ▶ 想像したことを表出する手段が乏しい

③〈特別支援教育の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

困難さの状態に対する指導上の工夫

①題材選定

絵本『りんごがたべたいねずみくん』
(なかえよしを作・上野紀子絵/ポプラ社)



- ・繰り返しが多く、背景の変化が少ない
 - ▶ 登場人物の行動に注目し易い
- ・主人公の気持ちの手掛かりとなる情報が叙述と挿絵で描かれている
 - ▶ 登場人物の気持ちを想像し易い

③〈特別支援教育の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

困難さの状態に対する指導上の工夫

②指導の手だて

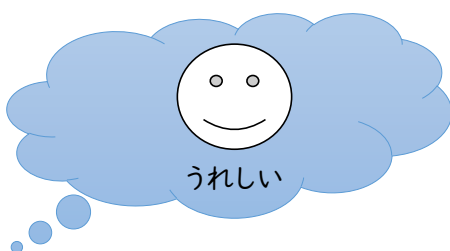


動作化・ペープサートの操作

- ▶ 体感的な内容理解につなげる効果
- ▶ 音声言語以外での表現手段になる

思考ツール“きもちぐも”の活用

- ▶ 気持ちの言葉と表情イラストが描かれた吹き出しを単元を通して扱う





③〈特別支援教育の視点〉単元「りんごがたべたいねずみくん」を例に

困難さの状態に対する指導上の工夫

③学習の展開

*別添資料④指導・評価3年記録より

前 20	どんなきもち?(気持ちの言葉) 【聞く・話す】 
後 20	絵本「りんごがたべたいねずみくん」 【読む】 

前半→教師が動く動画を観て教師の気持ちを考える単元に取り組む

後半→絵本を読み、登場人物の気持ちを考える単元に取り組む



思考ツールを共通で扱うことで、想像した気持ちを表現する手段になる

④取組の成果と課題

成果

- ・きもちぐもを使うことで“気持ち”という抽象的な言葉を表出できた
- ・発言以外の方法で表出する手段になり得る事例だった
- ・児童に応じて「きもちぐも」の選択肢を増やして提示することで、想像を深めていく指導の見通しが持てた

課題

- ・絵本の登場人物をいきなり想像することが困難であることが想定されるため、親しみのある身近な人物の動画やアニメーションのある絵本を活用して、徐々に登場人物に注目していく指導を検討したい。

中学部

研究対象生について(国語の授業や日常生活での姿)

個別の指導計画より：特支中1段階の生徒

◎ 自分で考えようとする姿が見られる

◎ 他者と関わるのが好き



△ 詳しく説明する活動が苦手
(様子を表す言葉の表現が乏しい)

△ 整理したりまとめたりする活動が苦手

△ 同じ話を繰り返したり、言葉が足りないことが多い



中学部で育成したい国語力



思いや考えを相手に伝える

自分の気持ちや考えを言葉や文字などそれぞれの表現方法で相手に伝える力

話し手が伝えたいことの内容を適切に捉え、捉えた内容を自分なりの言葉で話す力や行動に移す力

【創造的・論理的思考の側面を重視】*情報を多面的・多角的に精査し構造化する力

・説明的な文章において、的確に論理を読み取る

- ①中心となる言葉や文、情報を選択しながら、内容を捉える。
- ②文章の構成に沿って、内容を読み取る。

・自分の考えや意見などを正確に伝える文章を書く

- ①自分の考えや意見を書く。
- ②読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書く。

・自分の考えを明確にして伝える。

- ①自分の考えや意見を整理し、順序立てて話す。 など

【自立と社会参加】
社会で他者と共同・協働しながら、その子らしく精一杯生きる

相手に伝える力

経験したことや、考えたことを具体的に相手に伝える

自分の思いや考えをもつ

「話題の設定、情報の収集、内容の検討」の学習過程が対応している

順序立てて考える

「構成の検討」の学習過程が対応している

指導計画について

相手に伝える力の向上

伝える内容を具体的に

順序立てた伝え方

国語科3年計画

- ・反復的に取り組めるように、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」を指導する単元を毎年配列する
 - ・国語科で身に付けた「見方・考え方」を働かせられるように行事や体験活動と相互の関連を図る
- 指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導できるようにした

指導計画作成上の工夫（反復的に取り組む）

各領域の単元の数

領域名	単元の数
話す・聞く	11
書く	10
読む	6
知識及び技能	9

重点を置く指導事項を取り上げる単元の数

17 / 36

※ 「36」は3年間で取り扱う単元の合計数

指導計画作成上の工夫

国語科3年計画

説明的な文章を
中心に学ぶ年

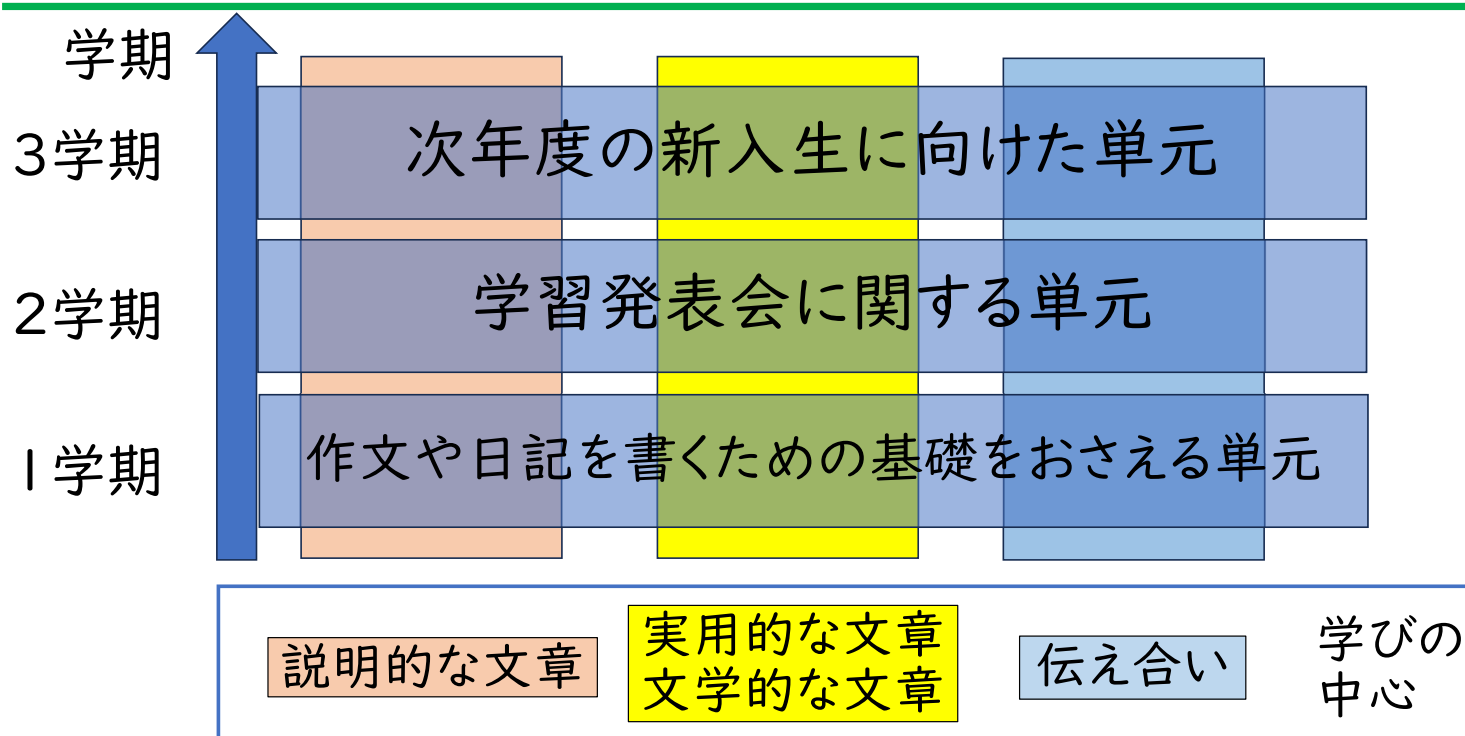
実用的な文章
文学的な文章を
中心に学ぶ年

伝え合いを
中心に学ぶ年

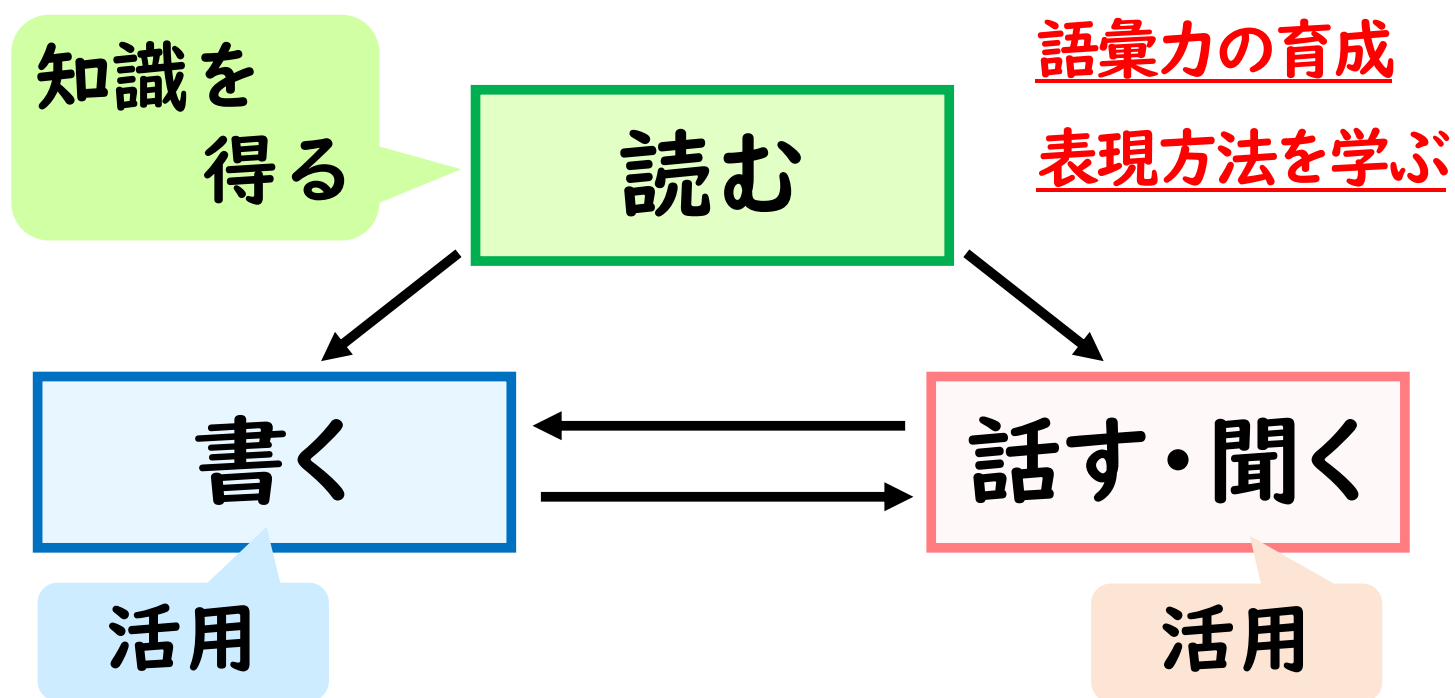
「話題の設定、情報の収集、内容の検討」
「構成の検討」

→どんな順番で学習しても生徒たちに偏りなく指導を行うことができるように、3年計画を立てた。

指導計画作成上の工夫（行事や体験活動と相互の関連を図る）



指導計画作成上の工夫



指導計画作成上の工夫

大きな単元のテーマ

小単元:指導事項 ③

小単元:指導事項 ②

小単元:指導事項 ①

複数の小単元を関連付けて一つの大単元を構成し、小単元の一つ一つで個別に指導事項を指導する。

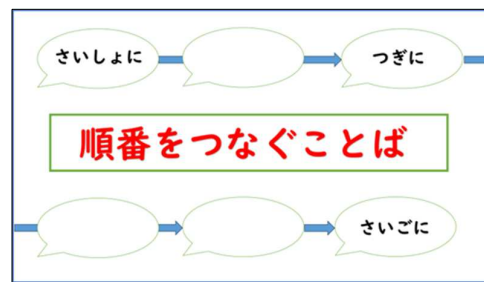
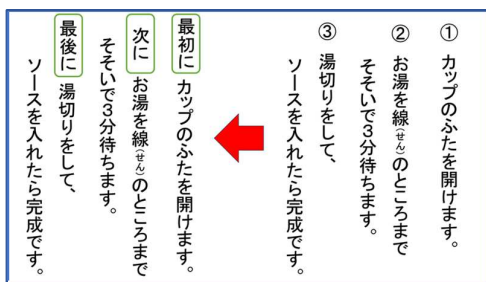
いくつかの指導事項を関連付けて、より効果的に指導することができる。

〈特別支援教育の視点〉単元「作業製品の作り方を説明しよう」を例に

順序を意識して説明する経験が少ない実態から・・・

③ 順序をより意識するために、

手順を表す接続詞への言い換えを行った。



〈特別支援教育の視点〉単元「作業製品の作り方を説明しよう」を例に



キーホルダーの作り方

①最初に マイクロプラスチックをフレームの中に置き、レジンを液を入れます。フレームをきかいて固めます。1分間を2回セットします。

②つぎに レジンを液を入れたら、フレームをきかいて固めます。1分間を2回にセットします。

③その後 マイクロプラスチックをフレームの中に置きます。フレームをきかいて固めます。1分間を2回にセットします。

④最後に もう一度、フレームの中にレジンを液を入れます。レジンを液を入れたら、フレームをきかいて固めます。1分間を2回にセットします。

⑤さいごに 固めたフレームに、トップコートをぬります。30秒から45秒でかわきます。

目最初に 今から環境整備班で作っているキーホルダーの作り方を説明します。

実生活で目にする説明書のほとんどは数字で示されている。
 ➡手順を表す接続詞に言い換えを行うことで語彙を広げる。理解する。

取組の成果と課題

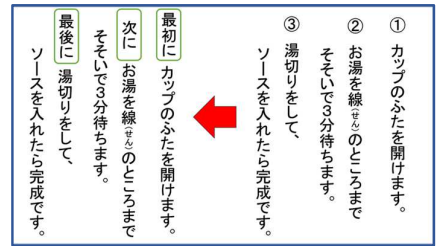
成果



工程の並べ替え



想起して書く



手順を表す接続詞に言い換える

学習活動を焦点化すること

具体物を操作しながら思考を視覚的に整理することが有効

課題

学習活動を分けるため、授業時数が増える場合がある

高等部

研究対象生について

教員の見取りより

- ・他者の意見など、聞いたことを記憶に保持することが難しい。
- ・興味のある分野は知識が豊富だが、知識の偏りや語彙の少なさがある。
- ・「話すこと・聞くこと(話し合うこと)」においては、内容を吟味せずに特定の生徒の意見が通ることや、それぞれの意見を言った後に話が停滞する様子が見られる。
- ・「書くこと」においては、感想文を書く際に時系列順に出来事を羅列したり、自分なりのパターンに当てはめたりして書く生徒が多い。
- ・「読むこと」においては、日頃から読書をする生徒は少ない。また、小学校第3学年の教科書教材で6ページ以上のものは読むことへの抵抗感を示す様子が見られた。

研究対象生について

発達検査 (CARD、URAWSS II、STRAW-R) の結果より

- ・対象生徒の発達段階は、8~9歳程度
- ・全体的には同年齢の児童生徒と比べて認知や言語などに関わる全般的な知的機能の発達に遅れが認められた

個別の指導計画より

- ・対象生徒の学習状況は特別支援学校学習指導要領
高等部I段階程度

⇒小学校第3学年程度の国語科の内容が、
生徒への過度な負担がなく、取り扱うことができると考えた

高等部で育成したい国語力



相手意識をもってやり取りする

豊かな語彙力と表現方法を身に付け、自分の気持ちや考え、想像したことを適切な言葉で表す力

話し手が伝えたいことの内容を適切に捉え、互いに納得・合意を図りながら物事を進める力

【自立と社会参加】
社会で他者と共同・協働しながら、その子らしく精一杯生きる

指導計画について

コミュニケーションの充実を図る

指導計画

- ・指導のまとめ方、順序、重点の置き方の工夫
- ・指導内容は相互の関連を明確化
- ・発展的、系統的な指導をねらった指導内容の配列

指導計画について

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
新入生歓迎会		現場実習		夏休み	体験入学 教育実習	現場実習	学習発表会				
書く 話・聞	読む	書く	話・聞		話・聞 知・技	書く	読む	書く	読む	話・聞	
人間関係を築く①	説明文	読むことと関連	学習発表会に向けて		人間関係を築く② 文法等		物語文	読むことと関連	詩や古文等(他も〇×)	新入生に向けて	生徒の実態により、領域を決定

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
習熟度別グループで話し合い					教育実習 体験入学	現場実習	学習 発表会	グループ混合で話し合い→発表			
話・聞			話・聞		話・聞					話・聞	

話す場面
を意識
記録・質問
して聞く

話し合いの
進め方を
学ぶ

つまづきの
ある部分
を扱う

相手に応じ
た伝え方を
したり質問
をしたりす
る必要性が
生まれる

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
今後の作文に生かす					教育実習 体験入学	現場実習	学習 発表会				
書く						書く					
推敲		書く						書く			

推敲

文の構成を
丁寧に

つまづきの
ある部分を
扱う

表現や語彙
を意識

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		現場実習		夏休み	教育実習 体験入学	現場実習	学習 発表会				
	読む	書く					読む	書く	読む		

構造と内
容の把握
は丁寧に

文の構成を
丁寧に

表現や語彙
にも着目す
る

表現や語彙
を意識

読書の幅を
広げる

〈国語科の視点〉

単元「話し合いをしよう～学習発表会の目標を決めよう～」を例に

目標

- ①比較・分類の仕方を理解し使うことができる。
〔知識及び技能〕小3(2)イ
- ②目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕小3A(1)ア
- ③目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕小3A(1)オ
- ④言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
「学びに向かう力、人間性等」小3

〈国語科の視点〉

単元「話し合いをしよう～学習発表会の目標を考えよう～」を例に

指導展開	学習活動
第1次 1時間	・話し合いの目的や進め方を知る。 ・自分の考えを付箋に記入する。
第2次 2時間	・それぞれ自分の意見を発表する。 ・全員の意見を比較・分類しながらグループの意見を決定する。



〈特別支援教育の視点〉

単元「話し合いをしよう～学習発表会の目標を決めよう～」を例に

【工夫点】

- ①話し合いのテーマは、学校行事に関わるものとした
⇒生徒にとって身近で、生活年齢に合うよう配慮
- ②単元構成は、ステップを踏んだものになるようにした
⇒生徒の困難さに合わせた配慮
- ③意見を書く、それぞれの意見を比較・分類するために付箋を用いる
⇒既習済の有効な手立てを継続

〈特別支援教育の視点〉

単元「話し合いをしよう～学習発表会の目標を決めよう～」を例に

困難さ



指導上の
工夫の意図

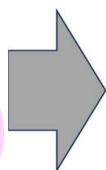
手立て



〈特別支援教育の視点〉

単元「話し合いをしよう～学習発表会の目標を決めよう～」を例に

自分の意見を述べながら既に出ている意見と比較・分類する
というように、2つのことを同時
に行うと混乱してしまうことが
ある。



【指導上の工夫の意図】

・思考(思いや考え、それを支える理由)を整理し、聞き手に伝えることができるようにする。

【手立て】

・付箋に意見を書いて思考をアウトプットすることで、思いや考えを視覚化する。
・自分の意見を述べてから他者の意見を踏まえて比較・分類するなどステップを踏んだ学習の進め方をする。

取組の成果と課題

成果

- ・対象とした生徒は、指導上の工夫の意図をもった手立てがあれば、小学校第3学年程度の内容を学習することが可能であった。（ただし、評価規準は個別の指導計画により柔軟に作成している）

課題

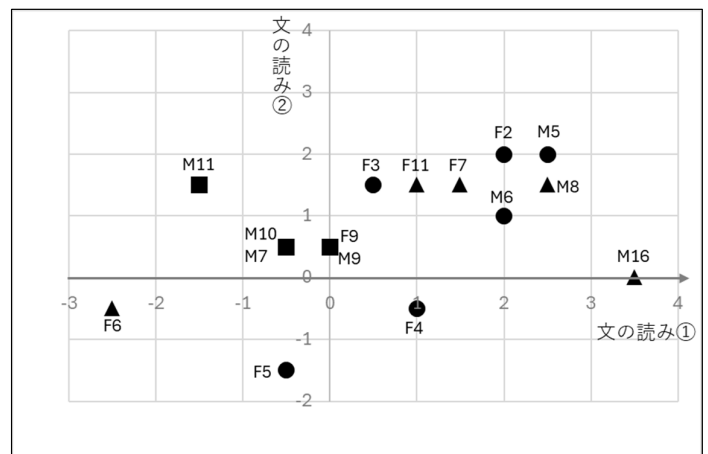
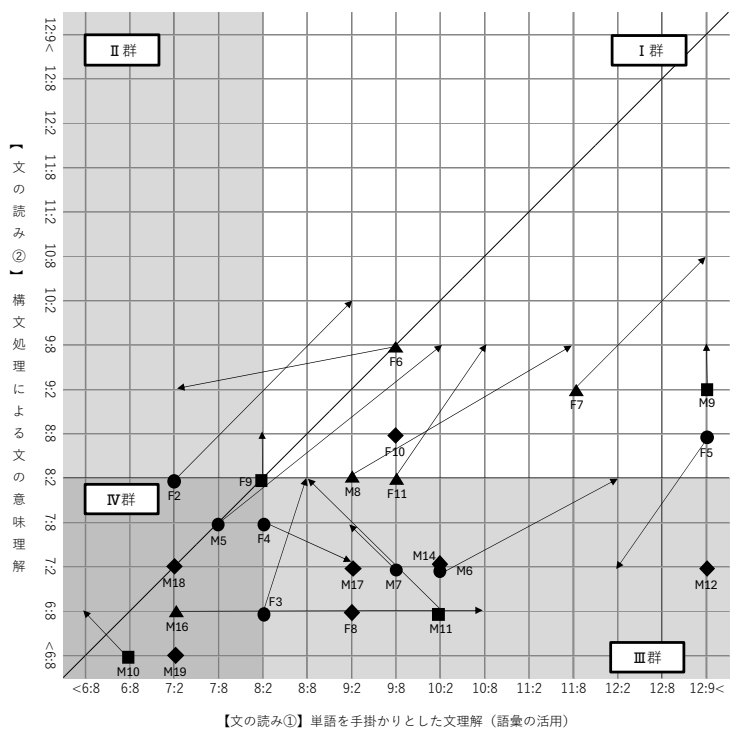
- ・1つの単元で身に付けたことが、他の場面で活用されるわけではない。そのため、3領域とも様々な題材を取り扱い、他の場面とも関連を図っていくことが必要と考える。
- ・「読むこと」においては生徒の生活年齢や既習の関係から、題材の選定が重要である。

【高等部(小3・4年)】 指導計画(試案)				知識及び技能															思考力、判断力、表現力等															単元計画時数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
				(1)言葉の特徴や使い方					(2)情報の扱い方					(3)我が国の言語文化					A話すこと・聞くこと					B書くこと					C読むこと																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																			(1)指導事項			(2)言語活動例		(1)指導事項			(2)言語活動例		(1)指導事項			(2)言語活動例																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
【備考】 ・「知識及び技能」(1)ウ「ローマ字」、(1)エ「漢字」に関する事項、(3)エの「書きに関する事項」については各教科等を含ませた指導の中で取り上げる。 ・手紙の書き方については現場実習後の礼状を書く際に指導する。				漢字漸次書き															漢字へんやつくり															3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
				抑揚強弱の取り方															抑揚強弱の取り方																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
※替えることができると思われる特支の目標				特高1①ア	特高1①イ	特高1①ウ	特高1①エ	特高1①オ	特高1①カ	特高1①キ	特高1①ク	特高1①ケ	特高1①コ	特高1②ア	特高1②イ	特高1②ウ	特高1②エ	特高1②オ	特高1②カ	特高1②キ	特高1②ク	特高1②ケ	特高1②コ	特高1③ア	特高1③イ	特高1③ウ	特高1③エ	特高1③オ	特高1③カ	特高1③キ	特高1③ク	特高1③ケ	特高1③コ	特高1④ア	特高1④イ	特高1④ウ	特高1④エ	特高1④オ	特高1④カ	特高1④キ	特高1④ク	特高1④ケ	特高1④コ	特高1⑤ア	特高1⑤イ	特高1⑤ウ	特高1⑤エ	特高1⑤オ	特高1⑤カ	特高1⑤キ	特高1⑤ク	特高1⑤ケ	特高1⑤コ	特高1⑥ア	特高1⑥イ	特高1⑥ウ	特高1⑥エ	特高1⑥オ	特高1⑥カ	特高1⑥キ	特高1⑥ク	特高1⑥ケ	特高1⑥コ	特高1⑦ア	特高1⑦イ	特高1⑦ウ	特高1⑦エ	特高1⑦オ	特高1⑦カ	特高1⑦キ	特高1⑦ク	特高1⑦ケ	特高1⑦コ	特高1⑧ア	特高1⑧イ	特高1⑧ウ	特高1⑧エ	特高1⑧オ	特高1⑧カ	特高1⑧キ	特高1⑧ク	特高1⑧ケ	特高1⑧コ	特高1⑨ア	特高1⑨イ	特高1⑨ウ	特高1⑨エ	特高1⑨オ	特高1⑨カ	特高1⑨キ	特高1⑨ク	特高1⑨ケ	特高1⑨コ	特高1⑩ア	特高1⑩イ	特高1⑩ウ	特高1⑩エ	特高1⑩オ	特高1⑩カ	特高1⑩キ	特高1⑩ク	特高1⑩ケ	特高1⑩コ	特高1⑪ア	特高1⑪イ	特高1⑪ウ	特高1⑪エ	特高1⑪オ	特高1⑪カ	特高1⑪キ	特高1⑪ク	特高1⑪ケ	特高1⑪コ	特高1⑫ア	特高1⑫イ	特高1⑫ウ	特高1⑫エ	特高1⑫オ	特高1⑫カ	特高1⑫キ	特高1⑫ク	特高1⑫ケ	特高1⑫コ	特高1⑬ア	特高1⑬イ	特高1⑬ウ	特高1⑬エ	特高1⑬オ	特高1⑬カ	特高1⑬キ	特高1⑬ク	特高1⑬ケ	特高1⑬コ	特高1⑭ア	特高1⑭イ	特高1⑭ウ	特高1⑭エ	特高1⑭オ	特高1⑭カ	特高1⑭キ	特高1⑭ク	特高1⑭ケ	特高1⑭コ	特高1⑮ア	特高1⑮イ	特高1⑮ウ	特高1⑮エ	特高1⑮オ	特高1⑮カ	特高1⑮キ	特高1⑮ク	特高1⑮ケ	特高1⑮コ	特高1⑯ア	特高1⑯イ	特高1⑯ウ	特高1⑯エ	特高1⑯オ	特高1⑯カ	特高1⑯キ	特高1⑯ク	特高1⑯ケ	特高1⑯コ	特高1⑰ア	特高1⑰イ	特高1⑰ウ	特高1⑰エ	特高1⑰オ	特高1⑰カ	特高1⑰キ	特高1⑰ク	特高1⑰ケ	特高1⑰コ	特高1⑱ア	特高1⑱イ	特高1⑱ウ	特高1⑱エ	特高1⑱オ	特高1⑱カ	特高1⑱キ	特高1⑱ク	特高1⑱ケ	特高1⑱コ	特高1⑲ア	特高1⑲イ	特高1⑲ウ	特高1⑲エ	特高1⑲オ	特高1⑲カ	特高1⑲キ	特高1⑲ク	特高1⑲ケ	特高1⑲コ	特高1⑳ア	特高1⑳イ	特高1⑳ウ	特高1⑳エ	特高1⑳オ	特高1⑳カ	特高1⑳キ	特高1⑳ク	特高1⑳ケ	特高1⑳コ	特高1㉑ア	特高1㉑イ	特高1㉑ウ	特高1㉑エ	特高1㉑オ	特高1㉑カ	特高1㉑キ	特高1㉑ク	特高1㉑ケ	特高1㉑コ	特高1㉒ア	特高1㉒イ	特高1㉒ウ	特高1㉒エ	特高1㉒オ	特高1㉒カ	特高1㉒キ	特高1㉒ク	特高1㉒ケ	特高1㉒コ	特高1㉓ア	特高1㉓イ	特高1㉓ウ	特高1㉓エ	特高1㉓オ	特高1㉓カ	特高1㉓キ	特高1㉓ク	特高1㉓ケ	特高1㉓コ	特高1㉔ア	特高1㉔イ	特高1㉔ウ	特高1㉔エ	特高1㉔オ	特高1㉔カ	特高1㉔キ	特高1㉔ク	特高1㉔ケ	特高1㉔コ	特高1㉕ア	特高1㉕イ	特高1㉕ウ	特高1㉕エ	特高1㉕オ	特高1㉕カ	特高1㉕キ	特高1㉕ク	特高1㉕ケ	特高1㉕コ	特高1㉖ア	特高1㉖イ	特高1㉖ウ	特高1㉖エ	特高1㉖オ	特高1㉖カ	特高1㉖キ	特高1㉖ク	特高1㉖ケ	特高1㉖コ	特高1㉗ア	特高1㉗イ	特高1㉗ウ	特高1㉗エ	特高1㉗オ	特高1㉗カ	特高1㉗キ	特高1㉗ク	特高1㉗ケ	特高1㉗コ	特高1㉘ア	特高1㉘イ	特高1㉘ウ	特高1㉘エ	特高1㉘オ	特高1㉘カ	特高1㉘キ	特高1㉘ク	特高1㉘ケ	特高1㉘コ	特高1㉙ア	特高1㉙イ	特高1㉙ウ	特高1㉙エ	特高1㉙オ	特高1㉙カ	特高1㉙キ	特高1㉙ク	特高1㉙ケ	特高1㉙コ	特高1㉚ア	特高1㉚イ	特高1㉚ウ	特高1㉚エ	特高1㉚オ	特高1㉚カ	特高1㉚キ	特高1㉚ク	特高1㉚ケ	特高1㉚コ	特高1㉛ア	特高1㉛イ	特高1㉛ウ	特高1㉛エ	特高1㉛オ	特高1㉛カ	特高1㉛キ	特高1㉛ク	特高1㉛ケ	特高1㉛コ	特高1㉜ア	特高1㉜イ	特高1㉜ウ	特高1㉜エ	特高1㉜オ	特高1㉜カ	特高1㉜キ	特高1㉜ク	特高1㉜ケ	特高1㉜コ	特高1㉝ア	特高1㉝イ	特高1㉝ウ	特高1㉝エ	特高1㉝オ	特高1㉝カ	特高1㉝キ	特高1㉝ク	特高1㉝ケ	特高1㉝コ	特高1㉞ア	特高1㉞イ	特高1㉞ウ	特高1㉞エ	特高1㉞オ	特高1㉞カ	特高1㉞キ	特高1㉞ク	特高1㉞ケ	特高1㉞コ	特高1㉟ア	特高1㉟イ	特高1㉟ウ	特高1㉟エ	特高1㉟オ	特高1㉟カ	特高1㉟キ	特高1㉟ク	特高1㉟ケ	特高1㉟コ	特高1㊱ア	特高1㊱イ	特高1㊱ウ	特高1㊱エ	特高1㊱オ	特高1㊱カ	特高1㊱キ	特高1㊱ク	特高1㊱ケ	特高1㊱コ	特高1㊲ア	特高1㊲イ	特高1㊲ウ	特高1㊲エ	特高1㊲オ	特高1㊲カ	特高1㊲キ	特高1㊲ク	特高1㊲ケ	特高1㊲コ	特高1㊳ア	特高1㊳イ	特高1㊳ウ	特高1㊳エ	特高1㊳オ	特高1㊳カ	特高1㊳キ	特高1㊳ク	特高1㊳ケ	特高1㊳コ	特高1㊴ア	特高1㊴イ	特高1㊴ウ	特高1㊴エ	特高1㊴オ	特高1㊴カ	特高1㊴キ	特高1㊴ク	特高1㊴ケ	特高1㊴コ	特高1㊵ア	特高1㊵イ	特高1㊵ウ	特高1㊵エ	特高1㊵オ	特高1㊵カ	特高1㊵キ	特高1㊵ク	特高1㊵ケ	特高1㊵コ	特高1㊶ア	特高1㊶イ	特高1㊶ウ	特高1㊶エ	特高1㊶オ	特高1㊶カ	特高1㊶キ	特高1㊶ク	特高1㊶ケ	特高1㊶コ	特高1㊷ア	特高1㊷イ	特高1㊷ウ	特高1㊷エ	特高1㊷オ	特高1㊷カ	特高1㊷キ	特高1㊷ク	特高1㊷ケ	特高1㊷コ	特高1㊸ア	特高1㊸イ	特高1㊸ウ	特高1㊸エ	特高1㊸オ	特高1㊸カ	特高1㊸キ	特高1㊸ク	特高1㊸ケ	特高1㊸コ	特高1㊹ア	特高1㊹イ	特高1㊹ウ	特高1㊹エ	特高1㊹オ	特高1㊹カ	特高1㊹キ	特高1㊹ク	特高1㊹ケ	特高1㊹コ	特高1㊺ア	特高1㊺イ	特高1㊺ウ	特高1㊺エ	特高1㊺オ	特高1㊺カ	特高1㊺キ	特高1㊺ク	特高1㊺ケ	特高1㊺コ	特高1㊻ア	特高1㊻イ	特高1㊻ウ	特高1㊻エ	特高1㊻オ	特高1㊻カ	特高1㊻キ	特高1㊻ク	特高1㊻ケ	特高1㊻コ	特高1㊼ア	特高1㊼イ	特高1㊼ウ	特高1㊼エ	特高1㊼オ	特高1㊼カ	特高1㊼キ	特高1㊼ク	特高1㊼ケ	特高1㊼コ	特高1㊽ア	特高1㊽イ	特高1㊽ウ	特高1㊽エ	特高1㊽オ	特高1㊽カ	特高1㊽キ	特高1㊽ク	特高1㊽ケ	特高1㊽コ	特高1㊾ア	特高1㊾イ	特高1㊾ウ	特高1㊾エ	特高1㊾オ	特高1㊾カ	特高1㊾キ	特高1㊾ク	特高1㊾ケ	特高1㊾コ	特高1㊿ア	特高1㊿イ	特高1㊿ウ	特高1㊿エ	特高1㊿オ	特高1㊿カ	特高1㊿キ	特高1㊿ク	特高1㊿ケ	特高1㊿コ

※1単位時間に満たない指導は「*」で示す。
 ※●は小学校第5・6年の指導事項を取扱った部分を示す。
 ※複数の指導事項の時数をまとめて示す場合は「●●」で示す。

各種データ

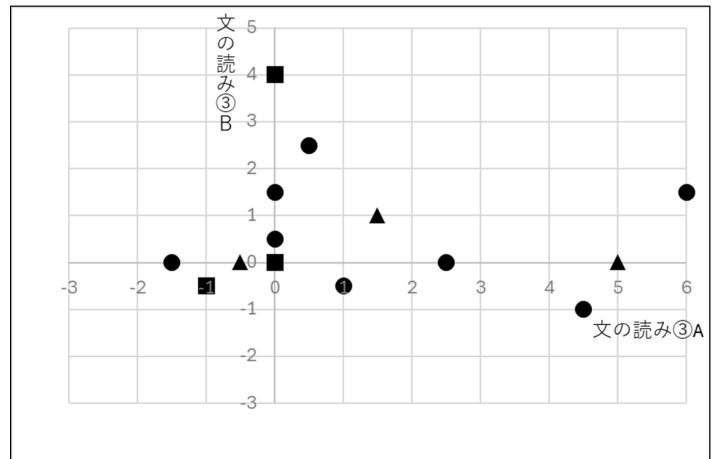
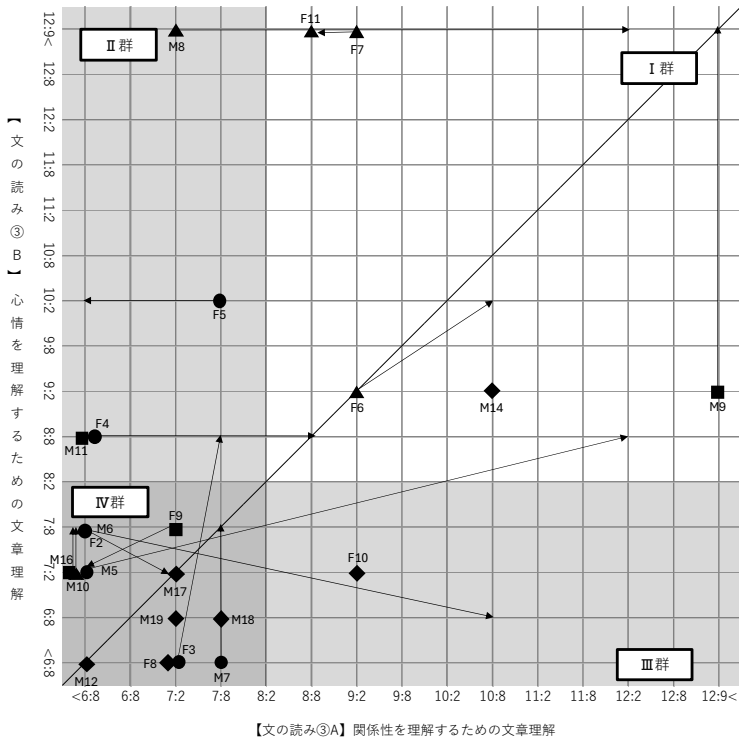
CARD結果① (文字・単語・文レベル)



- ◆：検査1回
- ：検査2回（1年間隔;R3→R4実施）
- ▲：検査2回（2年間隔;R3→R5実施）（2年間隔;R4→R6実施）
- ：検査2回（3年間隔;R3→R6実施）

・文字・単語の処理レベル、文の処理レベル（＝単文）では小学校第3学年程度の題材の学習することで、習得を図ることができる。

CARD結果② (文章レベル)

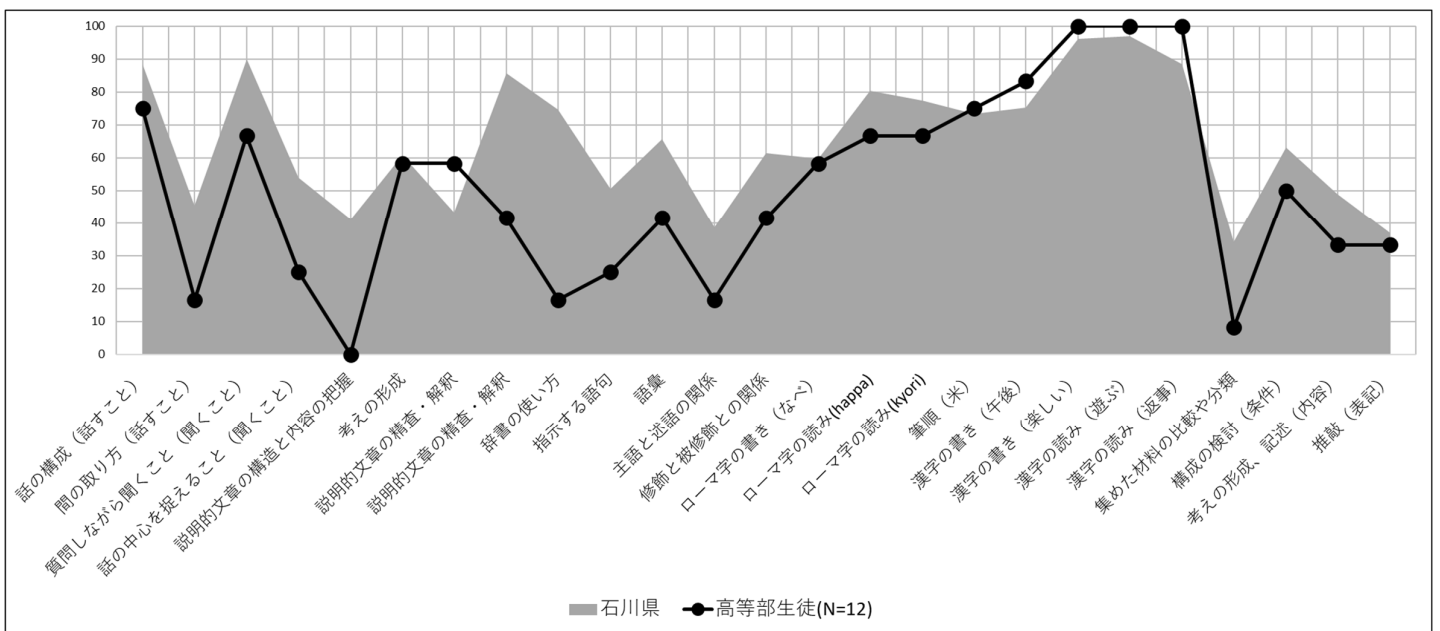


◆: 検査1回
 ■: 検査2回 (R3→R4実施)
 ▲: 検査2回 (R3→R5実施) (R4→R6実施)
 ●: 検査2回 (R3→R6実施)

・文章レベルでの処理では小学校第3学年程度の水準に満たない生徒 (IV群) が多く、指導に要した年数とテスト年齢の伸びは必ずしも一致しない。継続した指導によってII群・III群の水準に達する生徒がいたが、この生徒については取り扱う題材 (説明的な文章・文学的な文章) によっては指導方法の工夫 (評価規準の作成・発問の使い分けなど) を要する。

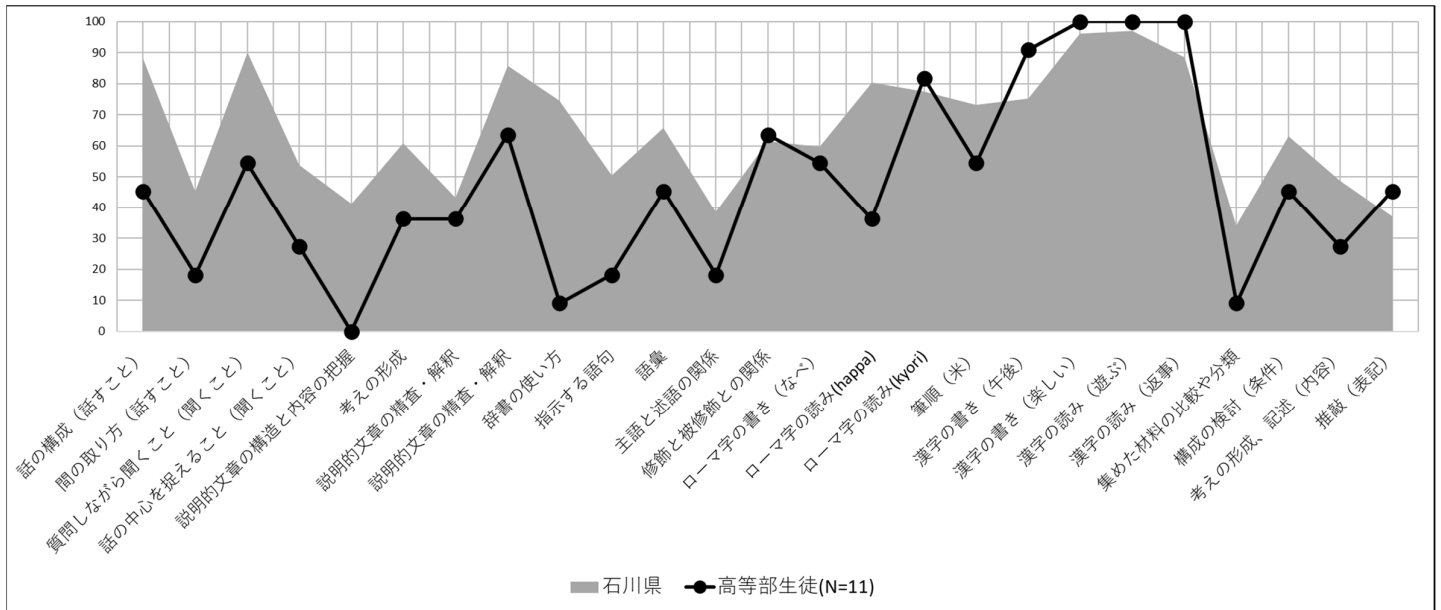
令和4年度石川県基礎学力調査結果

実施日: 令和5年2月
 対象生: 高等部12名



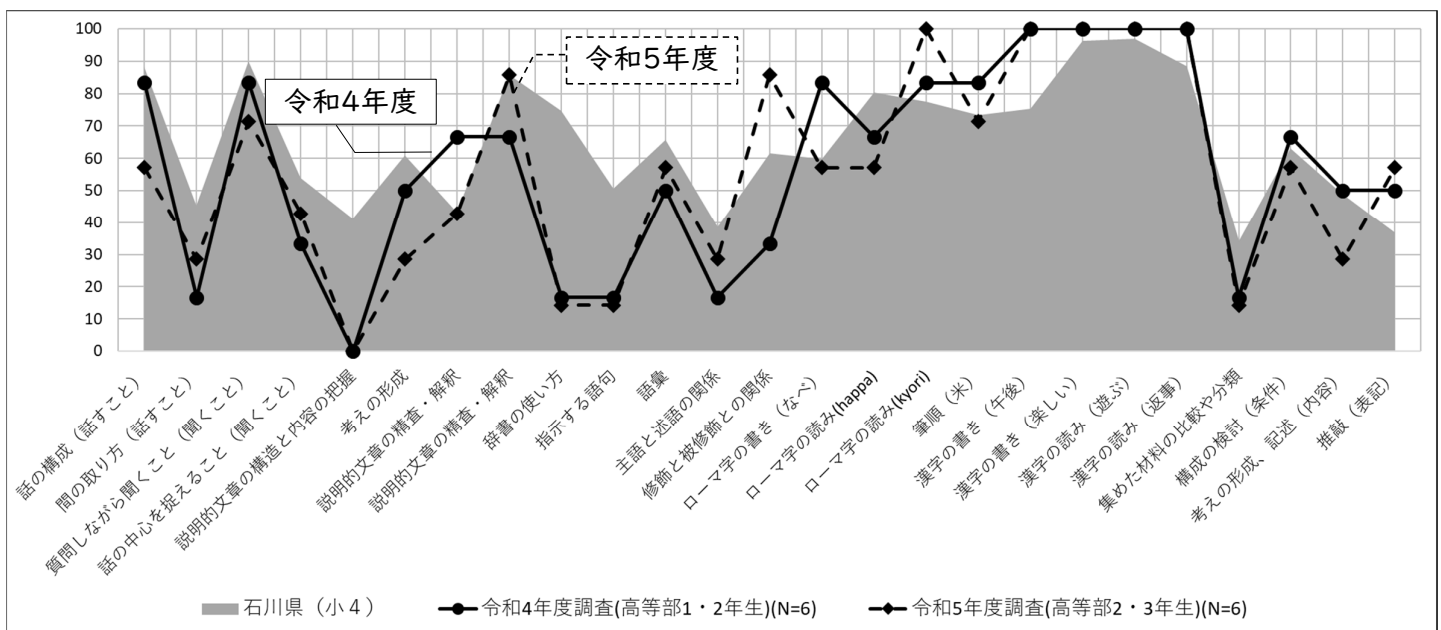
令和4年度石川県基礎学力調査結果

実施日: 令和6年2月
対象生: 高等部11名



令和4年度石川県基礎学力調査結果 (経年比較)

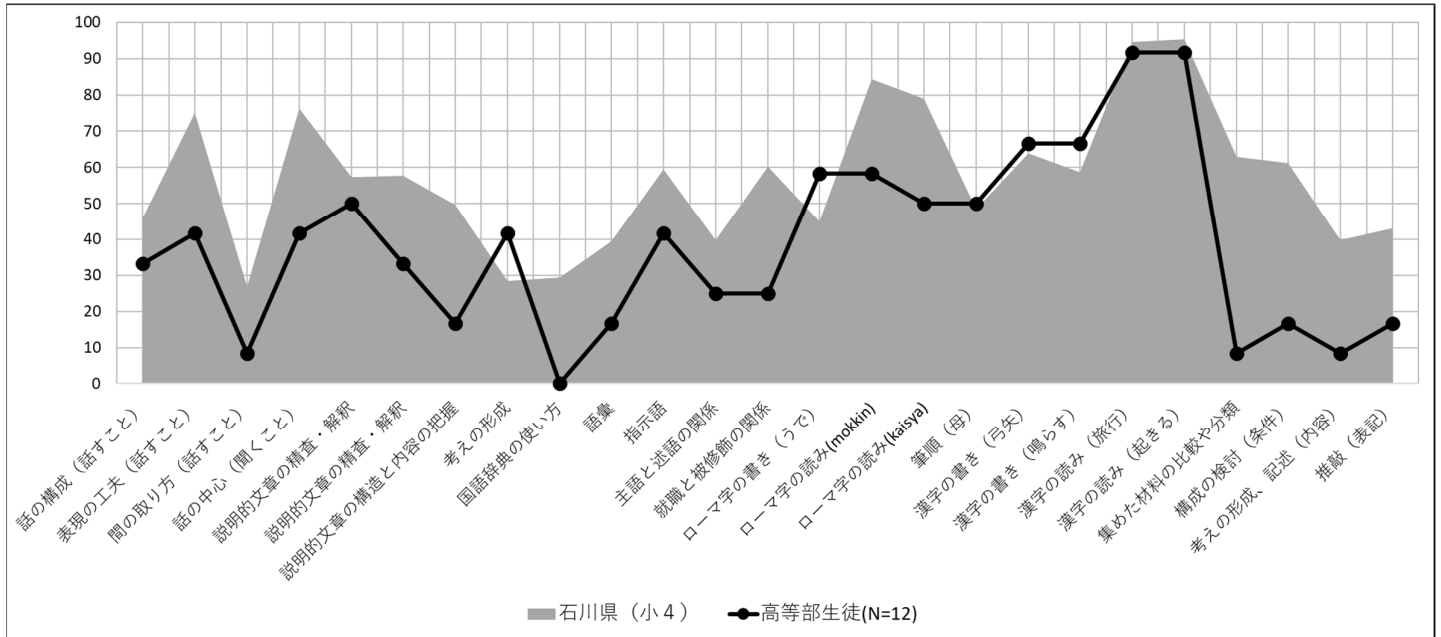
実施日: 令和5年2月・令和6年2月
対象生: 高等部6名



令和5年度石川県基礎学力調査結果

実施日: 令和6年7月

対象生: 高等部12名





独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education

令和3年～6年度 文部科学省研究開発学校
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

Society5.0を豊に生きるための資質・能力の育成

自立と社会参加のための 国語力を育む教育課程の探究 小学校等との「学びの連続性」の探究を通して



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

上席総括研究員 丹野 哲也

研究開発学校制度



教育課程改善のための研究

研究開発学校制度は、教育実践の中から提起される諸課題や、学校教育に対する多様な要請に対応した新しい教育課程（カリキュラム）や指導方法を開発するため、**学習指導要領等の国の基準によらない教育課程**の編成・実施を求める制度

【根拠 学校教育法施行規則第132条に基づく】

小学校学習指導要領国語科の**目標・内容に替え**、
一部又は全部を達成するための教育課程を編成する。
小学部⇒小学校 1・2年へ**接続**
中学部⇒小学校 1・2年へ**替える**
高等部⇒小学校 3・4年 又は 5・6年に**替える**



今般の特別支援学校学習指導要領では

小学部

○小学部の3段階に示す各教科、第4章に示す外国語活動の内容を習得し目標を達成している者については、小学校学習指導要領第2章に示す各教科及び第4章に示す外国語活動の**目標及び内容の一部を取り入れることができる**

中学部

○中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、中学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標を達している者については、中学校学習指導要領第2章に示す各教科の目標及び内容、小学校学習指導要領第2章に示す各教科及び第4章に示す外国語活動の**目標及び内容を一部取り入れることができる**

※高等部学習指導要領にも同様の規定